

学校では
教えてくれない
アーティストの
なり方



「アーティストとして食べていきたい。」

そう素直に言える人は

いったい日本に何人くらい

存在するんだろう？

学校を卒業して社会人になり

常識という眼に見えないルールのなかで


毎日のルーティーンの中の渦に巻き込まれ

どうやって子供の頃の夢を

思い出すことが出来るんだろう？

「わたしは何のために生まれてきたんだ？」





「アーティストで生活なんて無理じゃん。」

「美大出てないから。」

「不安定な職業でしょう。」

あなたの周りでこんな声を聞いて

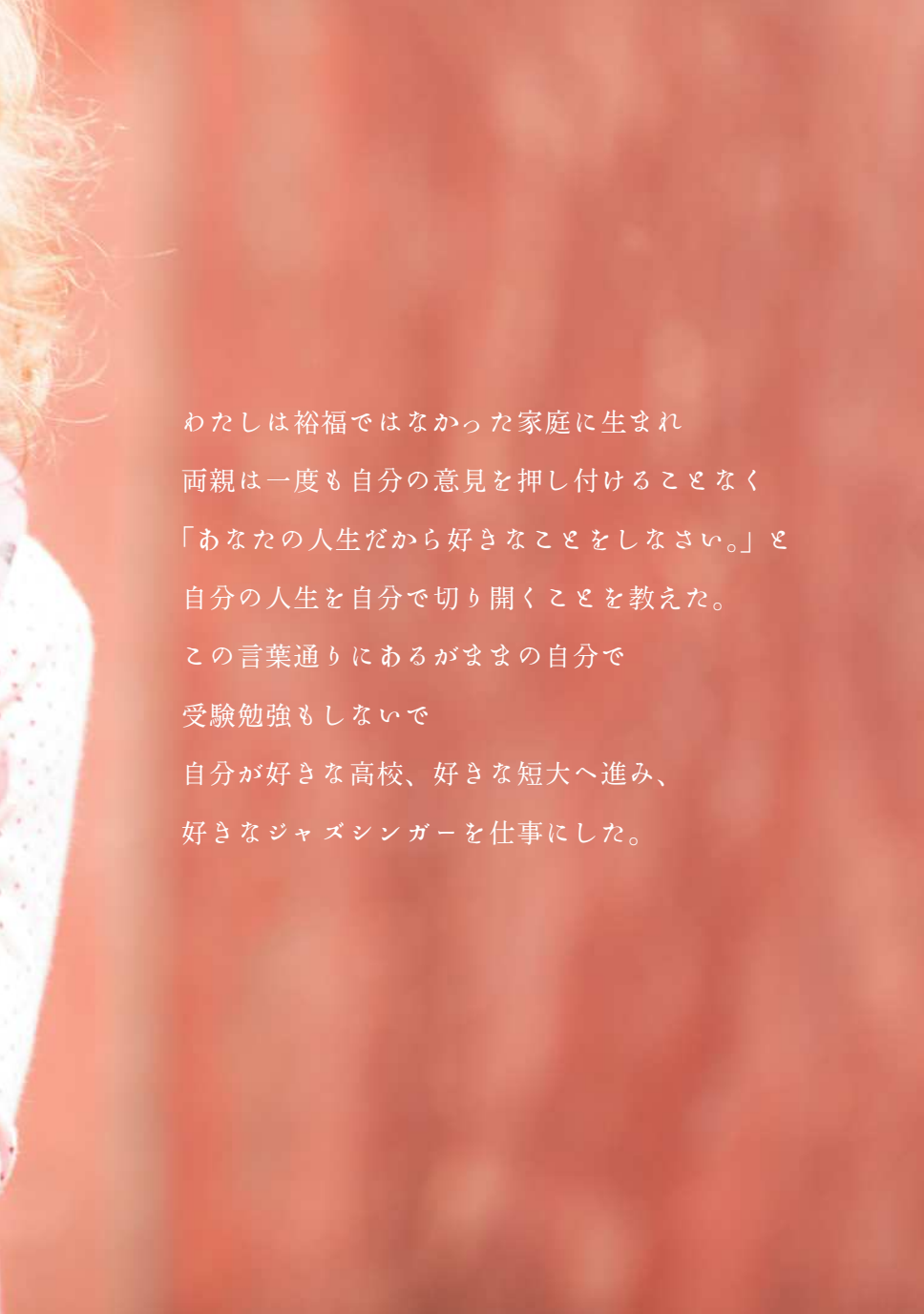
あなたも同じことを誰かに言う。

そしてその子たちは

毎日のルーティーンの渦に巻き込まれ


また夢を忘れてしまうだろう。





わたしは裕福ではなかった家庭に生まれ
両親は一度も自分の意見を押し付けることなく
「あなたの人生だから好きなことをしなさい。」と
自分の人生を自分で切り開くことを教えた。
この言葉通りにあるがままの自分で
受験勉強もしないで
自分が好きな高校、好きな短大へ進み、
好きなジャズシンガーを仕事にした。





20代の時、
日本という小さな世界で
自然な呼吸ができなくなった。
「幸せ」ではなかった。
自分の小さな価値観だけが
正解ではないと気付いたし
私の常識は世界では通用しない予感がした。
「わたしはここでは挑戦できない。」
この「気付き」がわたしに冒険をする
きっかけをくれた。



1998年、25歳の時

この国では苦勞できないからという理由で

渡米を決意して

小さなスーツケースひとつだけ持って

ニューヨークで人生をゼロからスタートさせた。

この17年間で

お金を稼いだとか地位や名譽を得たんじゃないなくて

世界中の人と出会いたくさんの経験をした。

“Art for Everyone” すべての人にアートをと

一人のアーティストの作品を展示したのを皮切りに

ブルックリンでアートギャラリーを営んで7年目になる。



毎日アートに囲まれ

毎日冒険のようにわくわくドキドキしながら生きて

子供の頃になりたかった自分になれている。

そして何より「アーティストとして生きている。」

一度も学校でアートを習いたいと思ったことはない。

経験から学んだことだけだ。

それが結果的には

自分で学ぶ強さを教えてくれた。

アートとは習うことではなく

自分の中から生まれるものなんだ。

世界の中心都市ニューヨークには
世界中のアーティストがたくさん存在し
その感覚もシェアしている。
人間は一人では生きてはいけない。
わたしたちは常にチームに属している。
今、あなたは自分の大好きなチームに入れているか？
もしあなたがそのチームに
「いなければならない。」や「いられるから。」
という理由だけでいるのであれば
あなたはそこにいる必要はないと思う。
あなたの「やりたい。」という素直な気持ちを
思い出してほしい。

本当はだれにも相談できず

何故かいつも心のなかで何かがかくすぶっていて

「自分のしたいことってなんだろう？」

「自分の好きなことで食べていきたい。」

「生きているうちに色んな経験をしてみたい。」

と思っているのであれば今から答えを探しにいこう。

あなたのチームは海の向こうに存在するはずだ。

わたしの子供の頃の夢は

「人生で世界中の人と出会うこと。」

今、わたしは世界の中心であるニューヨークに佇み

毎日、世界中の人と出会えているんだ。

YOUR DREAM WILL COME TRUE NEXT → :)



自称 アーティスト 上等!!!



「自称アーティスト」という言葉を聞いた事はあるか？そう『ただ自分の事をアーティストだと思っている』人たちのことだ。日本では、そういう人たちは白い目で見られたり、社会のつまはじきと思われることが多い。でもわたしは「自称アーティスト」が悪いことだとは思わない。

実はこのニューヨークは「自称アーティスト」だらけだからだ。あのかの有名な「キース・ヘリング」や「バスキア」も当時ここでは単なる「自称アーティスト」だった。ただ、違ったところは、その「自称アーティスト」が多くのファンを手にしたというたった一つの違いだ。

「キース・ヘリング」と地下鉄でグラフィティを描いていた私の友



人のアーティストに「彼との違いは何か？」と尋ねると「キースの描いた落書きの数はただ半端じゃなかったんだ」とだけ答えた。そう、このニューヨークの歴代「自称アーティスト」は描き続けることで、「どこかで見た事がある」になり、「みんなが知っているアート」になったわけだ。

わたしは世界のアートの中心地でもあるこのニューヨークで「自称アーティスト」が多くの成功を手にした理由を、日本にいる「自称アーティスト」に「学校では教えてくれないアーティストのなり方」として伝えたいと思った。これからアーティスト活動を始めたい人や、美大に通っておらず、アートの学歴が無い人でも簡単に海外でアーティスト活動できるコツを分かりやすくまとめたので、あなたの Secret Weapon（秘密武器）として使って欲しい。

そしてこれからも素敵な「自称アーティスト」でいてほしい！

ニューヨークで活躍する
カリスマアートディレクターが
学校では教えてくれない
アーティストのなり方を
教えます！





CONTENTS

プロローグ



1 合目

▶ P.33

自分の中に眠るアーティストを目覚めさせる

- ・アーティストになるために知っておきたい4つの事柄



2 合目

▶ P.39

アーティストとして自分自身を理解する

- ・超人気アートディレクターが教えるアーティスト志望が誤解しがちな8の常識



3 合目

▶ P.59

セルフブランディング自分を売り込む

- ・自分を営業する話
- ・海外のギャラリーの探し方の話
- ・海外で通用するアーティストバイオグラフィーの書き方
- ・英文サイト制作の話
- ・ギャラリーへの挨拶文の書き方



4 合目

▶ P.91

自分のアートへの投資

- ・ギャラリーからの素敵な返事？
- ・海外ギャラリー展示費用の話
- ・海外で好まれるアートの話
- ・海外のアートギャラリーとの付き合い方の話
- ・アートの値段の付け方の話
- ・海外郵送の梱包の仕方の話



5 合目

▶ P.127

海外で恥ずかしくないアーティストの^秘ルール

- ・ギャラリーでの簡単なディスプレイの仕方の話
- ・アート売買の決済の話



6 合目

▶ P.141

コミックで分かる 外国人ゲスト・クライアントとの接し方

- ・アメリカではインチが主流です
- ・LとRの発音が伝わらない
- ・アート写真はプリント制限をかける
- ・聞き間違いが生む誤解と悲劇
- ・アート用語を英語で言える？
- ・ギャラリーでお客様がよくする質問集



7 合目

▶ P.155

夢に参加する仲間を見つける

- ・夢に参加する仲間の見つけ方



8 合目

▶ P.163

アーティストの扉を開けた先

- ・結局はリピートが大切である話
- ・PESU氏インタビュー
- ・Tomo氏インタビュー



9 合目

▶ P.187

世界中に自分の熱血ファンを持つ

- ・誰も教えてくれない世界中に自分の熱血ファンを持つ話



10 合目

▶ P.193

あなたの生き方がアートになる

- ・アーティストとしてのリーダーシップの話

いたみありさのニューヨークダイアリー


Thank you letter from arisa

FOR YOU

もし、あなたがすでに「成功しているアーティスト」であるならこの本を読む必要はない。なぜなら、この本は著者が17年間のニューヨーク生活の中で発見した知識、日本人アーティストが考える成功するアーティストのイメージではなく、海外でアーティストとして飯を食う人たちと共に生活することによって得た『生き方がアーティストのなり方』のガイドブックだからである。





 **この本は、下記のようなアーティストは是非熟読してもらいたい。**

01. 英語が話せない
02. 外国人とコミュニケーションがとれない
03. アーティストステートメントが書けない
04. そもそも海外での活動方法が分からない
05. アーティストバイオグラフィーを書いたことがない
06. アーティスト仲間がいない
07. 目標設定が苦手
08. モチベーションが下がり気味
09. 営業が苦手または出来ない
10. 自分の売り込み方がわからない
11. 金銭的に厳しい
12. アーティスト活動を周囲に反対されている
13. 絵が売れると思っていない
14. アートを活かした仕事がどういうものか知らない
15. アート制作したいが日常に追われている
16. 海外に出る勇気がない
17. 日本を出るのが怖い
18. 行動せずにインターネットで事足りると思っている
(海外に実際行く必要がないと思っている)
19. 現状に満足している
20. アートは趣味の域で諦めている
21. 周囲の安定した仕事をしている人を見ていると不安になる
22. 独りで黙々とアート制作してコンペには出した事あるが展示はしたことがない
23. 海外を視野に入れたことがない
24. 他人の評価が気になりすぎる
25. 経歴にコンプレックスがある
26. 新しい事が怖い (変化が怖い)
27. ギャラリーやコレクターと繋がればなんとかなると思っている
28. 売れる作品を作るには自分の表現を押さえなければいけないと思っている
29. 生みの苦しみが辛くて楽しめなくなってきた
30. アートで生活する事は自分には無理だと思っている

ON CAUTION CAUTION



ON CAUTION CAUTION



読み始める前に WAIT!

まず、この本を手にとった人は、一度読んで終わりにしないで欲しい。一度読んで、その気になって熱を上げて（一週間後には冷めて）、それで終わりにしないで欲しい。この本には、君がこの先、きっとぶち当たるだろう多くの壁や困難について書いた。

そして、この先、巡り会うだろう多くのサポーターや幸福、アーティストとしての喜びについても書いた。何度も読み返して、君のアーティスト人生の道筋をサポートするガイドブックとして、ポロポロになるまで君の側に置いて欲しい。



アーティストとして旅に出る前の心構え

アーティストになるという山に登ったことがある人はあなたの周りにいるか？頂上への行き方を知っている人は？これらを伝えられる人は日本に何人いるだろうか？ここニューヨークでは、聞かなくてもアーティストたちが自分のストーリーを話してくれる。そう、山の頂上への行き方を教える道しるべになる人達がニューヨークにはいっぱいいる。次ページでは、私が今までニューヨークで聞いてきたこと、見てきたこと、感じたこと、やってきた経験をもとに「アーティストのなり方」を簡単にビジュアル化した図が載っている。日本ではかなり間違った情報が流れているみたいで、日本のメディアで流れていることが真実ではない。いつかそれを誰かが伝えていかなければいけないと思った。ただ言えることはあなたには無限のチャンスが存在するってということだ。この本には、それを得るまでの道筋が見えるようにひとつの工夫をしているので、いつも自分が何合目にいるのかを知っておいて欲しい。



アーティストになるための山は険しい？

日本のアーティスト志望者のほとんどが、右のような山を思い描いていることだろう。まず、美大を卒業して、ルートに乗って、専門家筋に評価をされてから、初めてアート市場に出る。

実際、日本のアート業界の状況は、残念なことに、ほとんどアート市場が確立していない。経済規模に比べて、アート市場は驚く程小さい。だから作品を売って、生計を立てるということがイメージできないかもしれない。世界のアートの市場は6.7兆円もあり、その70%はアメリカと中国の市場である（日本は1%余り）。アメリカの最大の街であるニューヨークでは、美大も出ていない若者が今日もギャラリーを回って、明日のアーティストを目指している。

そして、そんな無名のアーティストの作品もいつのまにかファンがついて、高値がつくということが、ニューヨークでは日常のことに起きている。



日本のアーティスト志望者が妄想する アーティストになるための道のり

10 合目

いつのまにか
オークションで
作品が高値になる

5 合目

個展を
プロデュース
してもらおう

7 合目

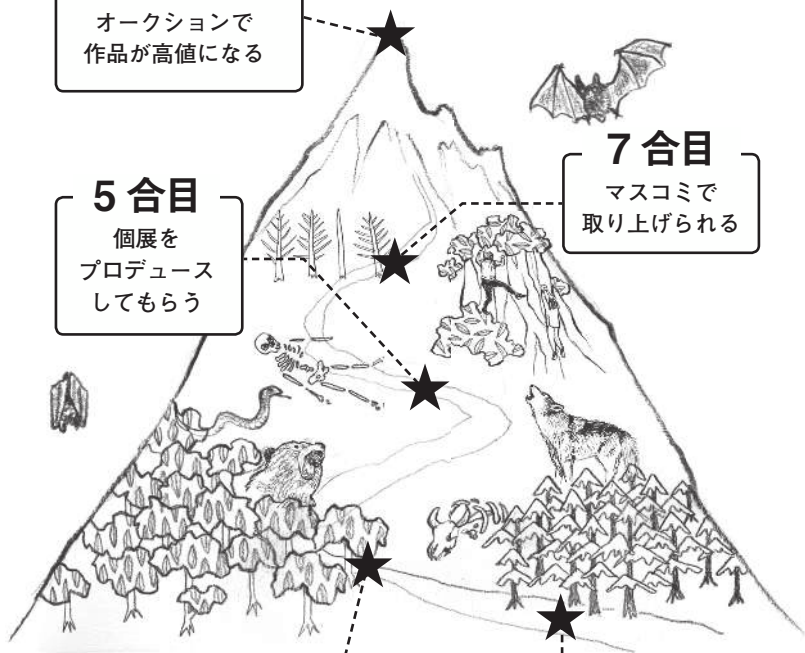
マスコミで
取り上げられる

3 合目

アートコンペで
賞を獲る

1 合目

美大卒業





アーティストになるための 山は楽しい

どんなアーティスト志望者でも、最初は必ず自分を見つめることから始める。そして、やがてギャラリーで個展を開催し、ファンを見つけしていく。誰かにやってもらうことなどない。すべては自分で作り、自分でプロデュースしていくのだ。誰でも最初は無名時代があり、有名になった後は取り巻きがすべてを仕切ってくれるかも知れないが、それは自分だけでやるには、あまりにも大規模かつ沢山のクライアントに囲まれているからだ。(そして、それが幸せなこととは限らない)

アーティストの登る山は、本来喜びで満ちている。それは、自分のアート作品に共感し、自分のアート活動を支援してくれる仲間との出会いの旅路だからだ。自分を表現して、仲間を見つけることが、人生で最もエキサイティングなことだと思うアーティストこそが、この山を極められるだろう。



世界のアーティストが目指す アーティストになるための道のり

10 合目

アーティストとして
生きていく

7 合目

何度も個展を
開催して、
お客さんを
増やしていく

5 合目

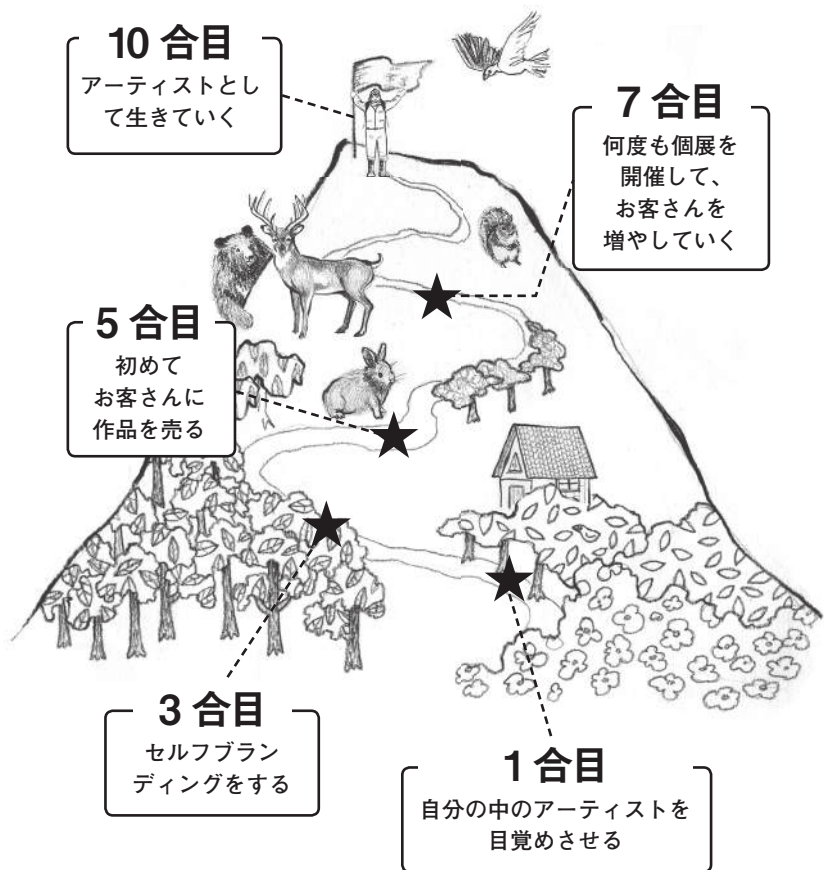
初めて
お客さんに
作品を売る

3 合目

セルフブラン
ディングをする

1 合目

自分の中のアーティストを
目覚めさせる



ニューヨークでギャラリーを経営してる
アートディレクターの私が

学校では教えてくれない
アートで飯を喰べていく方法を
アーティスト志望のあなたに
教えます。